中高年齢障害者の雇用継続支援及びキャリア形成支援に関する文献検討

○武澤 友広（障害者職業総合センター　上席研究員）
春名 由一郎・野口 洋平・堀 宏隆・宮澤 史穂（障害者職業総合センター）

１　背景と目的

我が国の65歳以上の高齢雇用者数の推移をみると、2010年から2020年の10年間で、正規の職員・従業員は46万人、非正規の職員・従業員は227万人、それぞれ増加している[1]。労働人口の高齢化に伴い、職業リハビリテーションの対象となる障害者の高齢化も予測される現状において、中高年齢障害者が職場や地域社会において活躍し続けることのできる社会を形成するための障害者と事業主双方への専門的支援のあり方の検討が急務となっている。

本発表では、我が国の近年の文献から、我が国における中高年齢障害者の雇用継続支援及びキャリア形成支援に関する未解決課題を特定することを目的とした。

２　方法

(1) スコーピングレビューの研究設問

「既存の知見から研究ギャップ（研究する必要がある未解決部分）を特定する」手法として、スコーピングレビュー[2]を参考に文献調査を実施した。

具体的な研究設問は以下のとおりとした。

①中高年齢障害者の雇用継続支援についてどのような取組がなされているのか。また、どのような課題が指摘されているのか。

②中高年齢障害者のキャリア形成支援についてどのような取組がなされているのか。また、どのような課題が指摘されているのか。

(2) 文献の検索方法

文献データベースのCiNii ResearchとJ-Stageを用いて、検索式は（中高年 OR 中年 OR 高齢 OR 高年齢 OR 加齢）AND（障害者 OR 障碍者 OR 障がい者）AND（雇用継続 OR 就労継続 OR 職場定着 OR キャリア）、検索期間は2018年１月～2022年12月とし、2023年７月７日に検索を実施した。

(3) 文献の選定方法

選定は筆頭著者が重複文献を除外した後、タイトルや要旨、本文から選定基準により、適格なものを選定した。選定基準は「和文であること」「中高年齢障害者の雇用（就労）継続支援又はキャリア形成支援に関する具体的な取組又は課題への言及を含んでいること」の２つであった。

(4) 情報の抽出方法

適格性を確認した文献から、著者名、文献タイトル、発行年、対象となっている障害種類、目的、調査方法、言及されていた中高年齢障害者の雇用継続支援又はキャリア形成支援に関する取組、課題を抽出した。

３　結果

(1) 文献の概要

文献検索の結果、725件（重複文献を除いた710件）が抽出された。選定基準を満たした対象文献は12件であった。

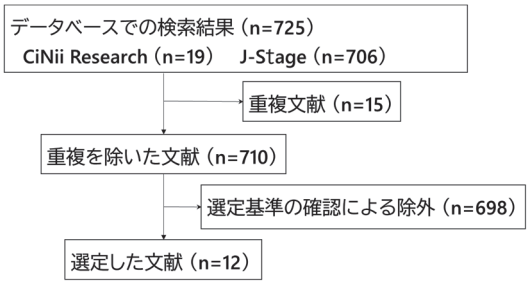

図１　文献の選定過程

対象文献の発行年は2018年が３件、2019年が１件、2020年が１件、2021年が２件、2022年が５件であった。

対象となっている障害種類は、身体障害が３件、知的障害が３件、精神障害が２件、発達障害が１件、高次脳機能障害が１件、難病が１件、認知症が２件、特定の障害種類に焦点を当てていないものが１件であった（１つの文献で複数の障害種類を対象とした文献は２件）。

調査方法は、文献研究が２件、質問紙調査が４件、面接調査が２件、質問紙調査と面接調査の併用が１件、参与観察と面接調査の併用が２件、会議録の内容分析が１件であった。

(2) 中高年齢障害者の雇用継続支援についてどのような取組がなされているのか

対象文献では、以下の８つの取組が記載されていた。

①【体力低下に配慮した業務内容の設定】農業において、高齢障害者は物陰で座って行える選果作業が割り当てられていた[3]。

②【短時間勤務】職場の人に障害ゆえの困難さを理解してもらった上で、フルタイムから６時間勤務に変更した脳性まひ者の事例[4]がある。

③【疾患・健康管理への配慮】多発性硬化症の離職は高齢者の方が若年者より多く、離職理由の最たるものは症状のコントロールが適切でないことにあるとし、早い段階で事業主に開示し、職場の配慮を得やすくすることが重

要であることが指摘されていた[5]。

④【アセスメントに基づくマッチング】その人を知り（アセスメント）、その人が一番本領発揮できる場面にいれるようにする（マッチング）配慮が行われていた[6]。

⑤【間違いに寛容】「注文をまちがえる料理店」[6]の取組に代表されるように「間違い」を肯定的に捉える空間を作り上げる取組があった。

⑥【ソーシャルキャピタルの形成】例えば、認知症者が事業所に「腫れ物に触るように接するのではなく、ミスをしたらしっかり注意してほしい」と伝える一方で、自分が得意なコミュニケーションを活かしてコミュニケーションが苦手な他の職員を支えるという信頼・互酬性の関係が職場内で形成されていた事例[7]があった。

⑦【尊厳に配慮した支援】飲食店において、認知症のある店員が受けた注文が店長に伝えられた後、店長はお客の方を見ながら少し大きめな声でオウム返しのようにオーダーを確認するといった配慮が行われていた[6]。

⑧【福祉的就労】高齢となっても「障害とつきあいながらする仕事」を「生活のために」続けていた高次脳機能障害者が多く、一般企業での就労が困難であっても就労継続支援B型事業所を利用することが自己効力感の向上につながっていることが報告されていた[8]。

(3) 中高年齢障害者の雇用継続支援についてどのような課題が指摘されているのか

対象文献では、以下の６つの課題が記載されていた。

①【加齢による機能低下と二次障害】蓄積された身体疲労により、筋緊張が強くなり、頚椎症を発症した事例などが紹介されており、身体がつらくなった時に仕事の途中で休憩を入れたり、テレワーク、時短勤務や通院休暇等の柔軟な働き方を推進する必要性が強調されていた[4]。

②【ライフステージに応じた心理・社会的問題】40代の精神障害者の中には親の高齢化に伴う健康問題や介護問題を抱えている者がおり、対象者だけでなく家族全体への支援やサービスの調整が必要であることが指摘されていた[9]。

③【中途障害者の障害受容の難しさ】中年期以降に受障した視覚障害者は、これまでに築いてきた社会や家庭から逸脱してゆくことに対する不安感を覚えるほか、喪失感も大きく、心理的に回復するまでに多くの時間を要することが指摘されていた[10]。

④【役割変化への適応の難しさ】中年期は、家庭、社会における実質的な働き手・担い手であるため、若年性認知症の発症によりもたらされる社会的な地位や役割の変化に対し、自分なりの人生後半の生き方を見出せるような支援、残存能力を活用した雇用管理の必要性が指摘されていた[7]。

⑤【間違いへの寛容の非日常性】上記３(2)⑤で取り上げた「間違い」を肯定的に捉える空間を作り上げる取組は時間、場所共に限られた限定的な取組であることがほとんどだが、このような空間づくりを一時的なものとせず、継続的なものとして社会に根付かせることの必要性が指摘されていた。

⑥【障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行調整の難しさ】介護保険サービス移行後の就労支援サービスの不足等が挙げられていた[11]。

(4) 中高年齢障害者のキャリア形成支援についてどのような取組がなされているのか。また、どのような課題が指摘されているのか。

今回、選定された文献において、キャリア形成をテーマとした文献は見当たらなかった。

４　考察と結論

中高年齢障害者の雇用継続支援については、加齢による心身機能の低下に対応した職務や働き方の調整だけでなく、ライフステージや職場・家庭での役割の変化に応じた適応支援、間違いへの寛容といった職場風土の醸成を含めた幅広い支援が求められていた。一方、キャリア形成の課題には焦点が当たっていないことが明らかとなり、研究ギャップに該当すると言える。

【引用文献】

1) 総務省統計局『統計トピックス No.132 統計からみた我が国の高齢者－「敬老の日」にちなんで－』, 〈https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1322.html>, 総務省(2022)
2) 友利幸之介他『スコーピングレビューのための報告ガイドライン日本語版：PRISMA-ScR』「日本臨床作業療法研究No.７」 日本臨床作業療法学会(2020), p.70-76.
3) 本田恭子他『就労継続支援にもとづく農福連携の現状―岡山県と大分県を事例に』「環境情報科学論文集Vol.32」 一般社団法人環境情報科学センター(2018), p.257-262.
4) 山ノ上奏他『脳性まひ者の就労状況と二次障害の変容』「リハビリテーション連携科学20巻２号」 日本リハビリテーション連携科学学会(2019), p.156-166.
5) 江口尚『難病患者における治療と仕事の両立支援に関する研究の現状』「産業医学レビュー34巻１号」公益財団法人 産業医学振興財団(2021), p.51-76.
6) 蔭久孝統『認知症ケアと社会的包摂』「コモンズVol. １」未来の人類研究センター(2022), p.41-72.
7) 中畑ひとみ他『若年性認知症がある人々が社会参加することの意味』「日本看護研究学会雑誌44巻５号」 一般社団法人日本看護研究学会(2022), p.735-747.
8) 浦上裕子『高次脳機能障害者の高齢化に伴う問題に対する研究』「NRCDレポート2022巻01号」国立障害者リハビリテーションセンター(2022), p.1-8.
9) 石井敦子他『個別支援会議録の内容分析からみる地域の精神保健福祉に関わる支援課題』「日本地域看護学会誌25巻２号」一般社団法人日本地域看護学会(2022), p. 32-39.
10) 大元慶子他『中途視覚障がい者の有する諸課題とケア実践に関する文献的検討』「Journal of Inclusive Education８巻」一般社団法人アジアヒューマンサービス学会(2020), p. 56-66.
11) 飯干真冬花他『中高年知的障害者への就労支援の課題－福岡県内の就労継続支援Ｂ型事業所を中心に－』「九州社会福祉学18号」日本社会福祉学会九州部会(2022), p. 49-64.